e-BEEF NEWS From A North Pasture

e-ビーフNEWS 北の牧場から

月刊情報誌
No.136

April 2025

発　行
特定NPO環境リサイクル肉牛協議会
〒080-0351
北海道河東郡音更町字然別
北5線西25番地2
FAX 0155-40-7301

十勝は、春だ

春分の日を過ぎると急にお日様の出が早くなる。5時なると、「起きれ」ばかり明るさが増してくる。やっと氷点下を抜け出し雪の不安も氷の張りも薄くなった。大雪後遺症残雪の白銀の世界から黒々した地面や、小麦のみどりが見えてきた。内地の桜満開のニュースが流れているが、エゾヤマザクラは、まだまだつぼみが大きくならない。
ボロを付けた牛たちは、やっと冬を越したかと、モリモリと自作のデントコーンを食い始めている。そのボロのついた冬の毛皮の外套も抜け始めてきた。早いな。畑の準備しないとあっという間に農作業が始まりそうだ。

活動のお知らせ

3/22(土)15:00	**帯広畜産大学　本館2階　口田研究室** e-びーふ認証レビュー会議開催
4/18(金)	**HOBA北海道オーガニックビーフ振興協議会 第9回総会　帯広 とかちプラザ** 講演会①「みどり戦略と北海道畜産」(仮)北海道農政事務所 ②「大地が再生する農業の面白さ」レイモン・エップ氏(長沼町)
5/17(土)18(日)	**日本産肉研　研究大会岩手　牛の博物館(奥州市前沢)** 基調講演　肉牛ジャーナル編集長

NEWSばか読み

- 農水省 コメ不足23万tに拡大 追加放出を示唆 3/1:あおっているのかな
- アグラボ学生企業コン 北大チーム優秀賞 道産木材洋酒樽提案 3/3:起業いいね
- キャベツ輸入1月1.7t 昨対40倍3/4:安定供給の必要性
- USDA鳥インフル拡大で卵価2倍に3/4:世界各国拡大
- 政府 退職自衛官の就農促進で支援3/5:軍から食品の守りに
- 帯広畜産大学と北海道自然電力 営農型発電 十勝で実証3/5:どの形態が正解か
- トランプ政権 農産物関税上げ3/6:自国生産重視 自給率上げないと
- 首相 学給無償化 地場産有機推進3/7:約束達成できるか
- 品川区 学給10月から野菜有機化へ3/7:努力
- 閣議 食品等流通法改正案決定 指標作成へ 3/8:数値の基準は如何に
- 政府 コメの輸出2040年100万t輸出目標 3/11:危ない自給率が先では
- クボタ 無人汎用型農機を大阪万博で公開3/11:近未来
- カゴメ、総菜大手ロック・フィールド国産野菜調達で業務提携 3/12:安定供給へ
- 政府 インバウンドの食消費を3倍に計画目標 3/12:自給とのバランス
- 農水省 基本計画案で牛肉36万t微増732万t維持 3/13:やる気の問題
- 農研機構 世紀末予測でミカン産地全てで不適地に3/17:亜熱帯化
- 農水省 職場の食生活改善に取り組む企業の認定制度「大人の食育」創設3/17:
- 松屋 牛めしに輸入国産ブレンド米 外食拡がる3/18:定番化に
- 農水省 GIに清水町「十勝若牛」新たに登録3/19:
- 25年主食米作付け2.3万ha増　飼料米から転換目立つ 3/20:需給バランス
- 環境庁 デジタルノマド(遊牧民)環境整備にへ補助3/21:
- 米国内商業生産農産物3品のGM品種が9割超え 3/21:知らず知らずに浸透
- 子実コーン2500ha5年前から7倍に3/22:まだまだ
- JA全農ET ET受胎率6割台に3/24:技術向上
- 岩手大 獣医学部開設 東北地方の国立大で初めて 3/24:初めてなんだ
- アグラボ 近畿大スタートアップ企業ビーフソムリエ出資3/25:
- 農水省 23年度給食278市町村で有機採用 環境重視加速 3/26:
- 農水省 牛ランピースキン病 強制殺処分対象に1年限る 3/27:まん延防止へ
- 農水省 基本計画 農業5年で構造転換 食糧安保へ 3/28:本庁も構造改革必須
- 令和の百姓一揆 14都道府県でトラクター行進3/30:きっかけに

東京直近NEWS(3/29　Shi-REPORT)

ホルス

況相場はもちあい状況も、
産地相対相場は生産者の生産コスト下がらず引合い強く産地強気交渉継続。素牛、飼料含めた生産コスト下がるもの無く産地も苦境強いられている。販売はホルスの慢性的不足から、赤身,バラ系パーツ中心に切落しの引合いが強い。冷凍パーツも市中余剰在庫無く、加工原料の確保も苦戦。生産コスト上昇と引合いも強く、末端量販店への価格改定へも着手し値上げに対しての一定理解は示し徐々に値上げ実施。
産地は出荷頭数が既に減少しており、供給頭数に制限や加工頭数に影響も出てきている。数値以上に頭数不足化は深刻か。

経産牛

北海道内の出回り頭数の減少基調は継続中。
本州の頭数減も深刻のようで、道内市場への買参人増加も継続している。生体輸送費コスト上昇しているが、それ以上に本州の頭数不足から購買役は強い。販売面はパーツ部位によって不足感が強く、特にこれからの季節アイテムのバラ系不足感が強い。
同時に挽き材の不足感はもっと強く、販売先への浸透も早くスソモノへの代替引合いも強いが余剰無し。産地在庫も逼迫感強く、各社新年度への持ち越し在庫も想定より少ない模様で不安感強い。輸入品の割安感もないため、国産の一定需要は引き続き強く在庫確保課題。

左先生の畜産学研究NEWS

1. 肉用牛研究会報118号(2025.1)
画像解析による脂肪面積割合と格付員によるBMS No.の年次推移に関する研究(口田圭吾他、帯畜大)

和牛中心の牛肉生産の肉質評価は脂肪交雑重視で日本食肉格付協会の格付員がBMS No.の標準写真などから目視検査しています。黒毛和種と交雑種の枝肉画像解析で得られるロース芯内脂肪面積割合、新細かさ指数と格付員によるBMS No.との関連性を2005年～2021年の17年間計47507頭について検討しました。肉牛は育種改良やVt.A調節などの肥育技術の向上でBMS値は向上しました。(黒毛和種5.02→7.67、交雑種3.06→3.97)脂肪面積割合と小ざしの評価とは一致しない面もありますが小ざしの指標は新細かさ指数が関連しています。格付員のBMS判定には脂肪面積割合だけでなく小ざしの程度や新細かさ指数も安定的に影響していると思われました。

2.畜産技術837号(2025.2)
(1)(技術情報3)黒毛和種去勢肥育牛飼養管理におけるIoTモニタリングシステムの活用について(磯崎良寛,福岡県農林総試)

肉牛農家の飼養頭数拡大は生産者の高齢化、後継者不足を補完する飼養技術の開発が必要です。IoTモニタリングシステムは、AI解析による牛の行動情報を農家のPCやスマホに通知して迅速で適正な対応を促すものです。ここではデザミス社のU-motionを黒毛和種の肥育牛に適用した内容です。牛の首輪に装着したセンサータグに牛の行動加速度や気圧センサーを組み込み牛の起立・横臥行動時間や舎内環境の指数などの情報をクラウドに送り、AI解析して生産者に通知します、行動時間などに異常があれば注意アラートや疾病アラートが発せられ生産者の牛固体毎に適切な飼養管理で生産性を向上させる効果に至り、疾病アラートに対応し迅速な処置で未然に鼓張症を防いだ事例もあります。

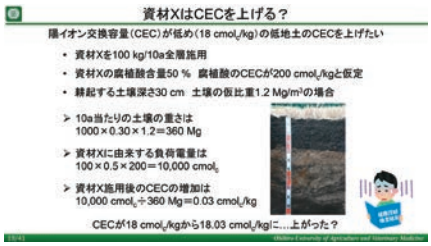
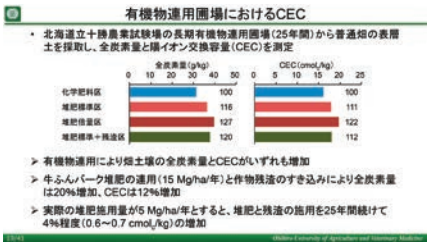
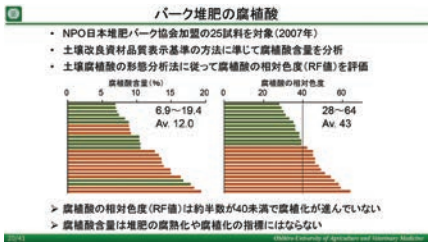
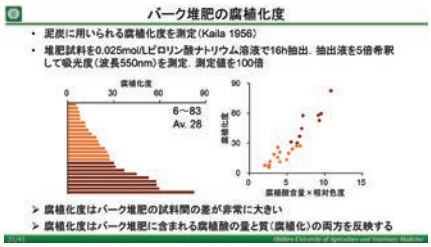
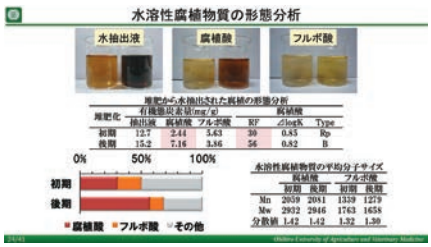
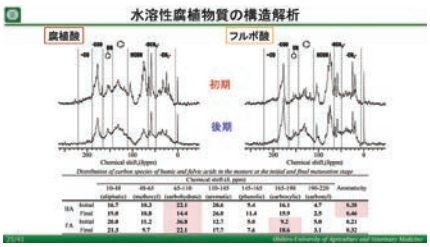
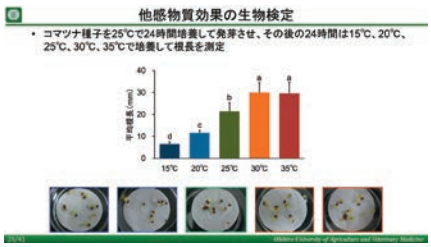
(2)海外統計DATA:米国農務省の世界の食肉需給見通し(2024.10)

世界の牛肉生産はアルゼンチン、豪州、インド、メキシコが増加、ブラジル、EU、米国が減少で計6,090万tです。その結果、世界の牛肉輸出はほぼ横ばいで推移し、米国の牛肉生産は4%減、輸入は200万t。

3.畜産技術838号(2025.3)
(1)(技術情報3)黒毛和種去勢肥育牛を6ヵ月齢から肥育を開始し24ヵ月齢で出荷すると枝肉成績に大きな影響を与えることなくうま味関連の遊離アミノ酸が高い傾向となる(安永良介、佐賀県畜試肉用牛斑)

黒毛和種去勢牛10頭で、ブランド牛「佐賀牛」の高品質牛肉生産における出荷月齢の早期化(24ヵ月齢)が発育や枝肉成績と牛肉中の遊離アミノ酸18種の含量などに及ぼす影響を検討しました。24ヵ月齢出荷は旨味関連遊離アミノ酸含量が高まることが示され、鮮度の指標とされる核酸関連物質に有意差はみられませんでした。出荷月齢の早期化でブランド牛の高品質牛肉生産は維持されています。

資源循環型肉牛生産シンポジウム 2024

転載・再利用は固くお断りします

基調講演「堆肥の機能性成分と作物生産への活用」5回シリーズ③
帯広畜産大学教授　谷 昌幸 氏